

www.hosei.ac.jp/library

HOSEI UNIVERSITY ICHIGAYA LIBRARY

市ヶ谷図書館 だより

特別増刊号

VOL. **2**
2021.4

読書遍歴・本棚紹介

本を愛するスタッフたちを紹介！

三題噺

キーワードで物語を紡げ

電子ブック活用術

オンラインでも図書館へ、電子書籍

活動ピックアップ

もっとDEEPに、ライサポを

Edited by

<https://www.hosei.ac.jp/library/>



ICHIGAYA LIBRARY SUPPORTERS

法政大学市ヶ谷図書館ライブラリーサポーター



ライサポメンバーによる

本棚紹介 & 読書遍歴

市ヶ谷ライサポメンバーの本棚や読書遍歴を紹介します。



私の本棚の一部を紹介したいと思います！

○地球の歩き方編集室編、2020、『地球の歩き方 東京』、ダイヤモンド社

海外旅行用として有名なガイドブックの東京版です。エリアごとに東京の観光名所や名物が紹介されていてとてもわかりやすいです。東京の習慣とマナーについてまで紹介されていて参考になりました。

○中川裕・野田サトル、2019、『アイヌ文化で読み解くゴールデンカムイ』、集英社新書

明治時代の北海道を舞台にした人気漫画『ゴールデンカムイ』（野田サトル著）をもとにアイヌ文化をわかりやすく紹介しています。アイヌ文化については全くの初心者だった私でも読みやすかったです。

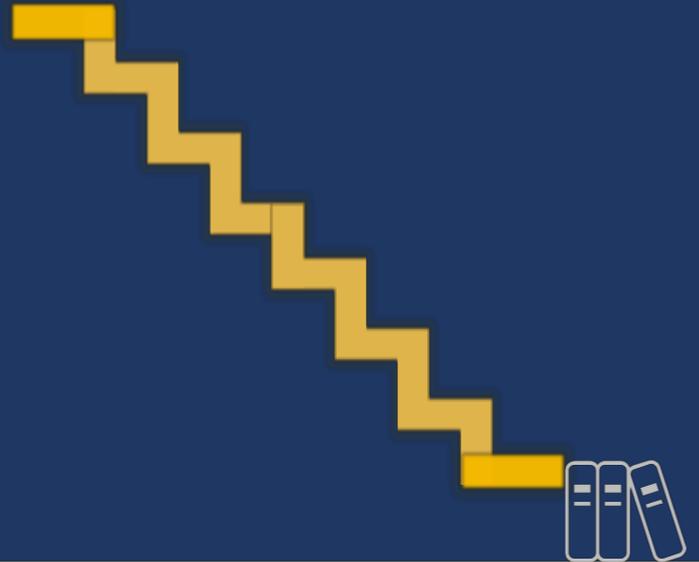
○森村誠一、2015、『人間の証明』、角川文庫

「母さん、僕のあの帽子、どうしたでせうね」というセリフで有名なミステリー小説。映画化もされており、映画も有名です。私は世界観が好きでした。

○Jam、2018、『多分そいつ、今ごろパフェとか食ってるよ。』、サンクチュアリ出版

SNSで話題になった本。ねこのキャラクターの漫画と共にココロを守る考え方を紹介しています。特に最近ではSNSでのストレスに対する考え方が役に立つのではないのでしょうか。

（ライサポ4年）



新書と文庫を入れている本棚です。法律学科ですが、ここにはほとんど法律の本はありません(法律関係の本はサイズが大きいので…)。政治やジャーナリズム、人工知能に関する本や、安部公房などの小説を並べています。この棚の特徴はスライド式なところ。奥にどんな本が隠されているかは秘密です。本棚からオススメの本を紹介します。

○半藤一利、2006、『日本のいちばん長い日』、文藝春秋

1月12日に亡くなった半藤一利さんの作品です。太平洋戦争末期、終戦と戦争継続の選択肢の中で、軍や政治の思惑が複雑に絡み合います。8月15日に玉音放送が流れるまでに、何が起きていたのか。関係者の証言を基にしたノンフィクションです。

半藤さんは一昨年の6月、神楽坂の漱石山房記念館で講演をされたことがあります。参加したいと思いつつも、他の予定と被ったために叶わず…。あの時参加していればと後悔しています。

○D.J.リンデン、2016、『触れることの科学』、河出書房新社

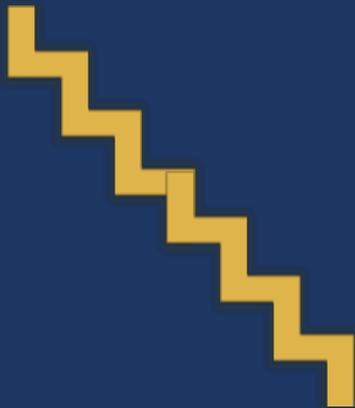
「ポケットの携帯、バイブがなったから確認しなきゃ」。そう思ってスマホを確認すると、実際は鳴っていなかった。こんな経験がある人は多いのではないのでしょうか。こうした身近な触覚の疑問について解説してくれる一冊です。コロナ禍で握手などの触れ合いがなくなった今こそ、「触れること」について学ぶのも面白いと思います。

(ライサポ3年)



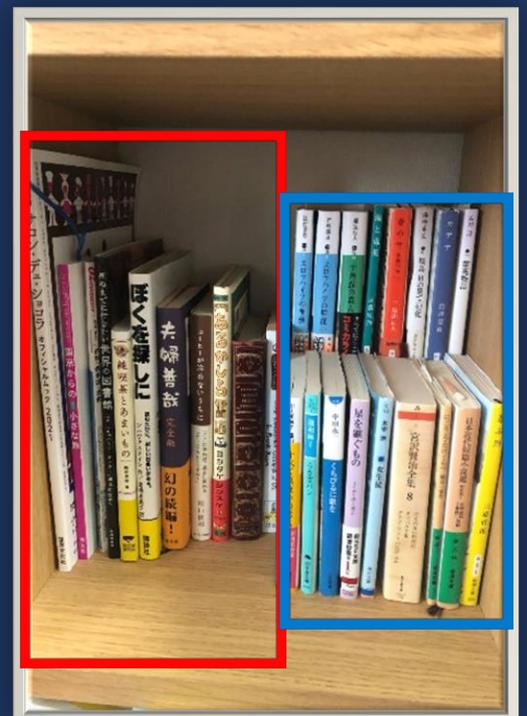
両親の影響で本がたくさんある家に育ちました。幼いころは絵本の良い聞かせをしてもらっていて、特に『ぐりとぐら』や『こぐまちゃん』が好きで、何度でも読み聞かせしてもらった記憶があります。自分で本を読むようになると、昔話やおとぎ話をよく読みました。小学校高学年になると、講談社の青い鳥文庫を読み漁るようになり、『パスワード』シリーズや『名探偵 夢水清志郎』シリーズをよく読みました。一般の文庫本にも手を出すようになります。最初にも買った文庫本は、中勘助の『銀の匙』と上橋菜穂子の『精霊の守り人』でした。それからは、金城一紀や恩田陸、辻村深月にはまりながら現在に至ります。物語のジャンルとしては、ミステリーがずっと好きですが、最近はノンフィクションも読むようになりました。

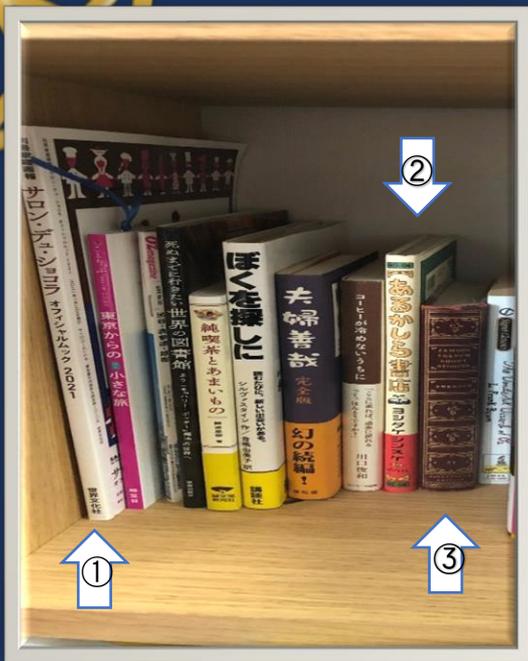
(ライサポ3年)



赤枠：ムック本や旅行雑誌、ハードカバーなど大きなサイズの本や洋書のスペース読み途中の本もある。

青枠：文庫本のスペース、主に左半分は今読んでいる最中の本や特に思いいれのある本、右半分はゼミや授業の課題で扱った本が並ぶ。





① 2021、『別冊家庭画報 サロン・デュ・ショコラ オフィシャルムック 2021』、世界文化社…チョコレートの祭典、「サロン・デュ・ショコラ」に出店するお店とチョコが載っているムック本。どこを見てもチョコレートが載っているので見ていて楽しい。チョコレート好きにはたまらない本。

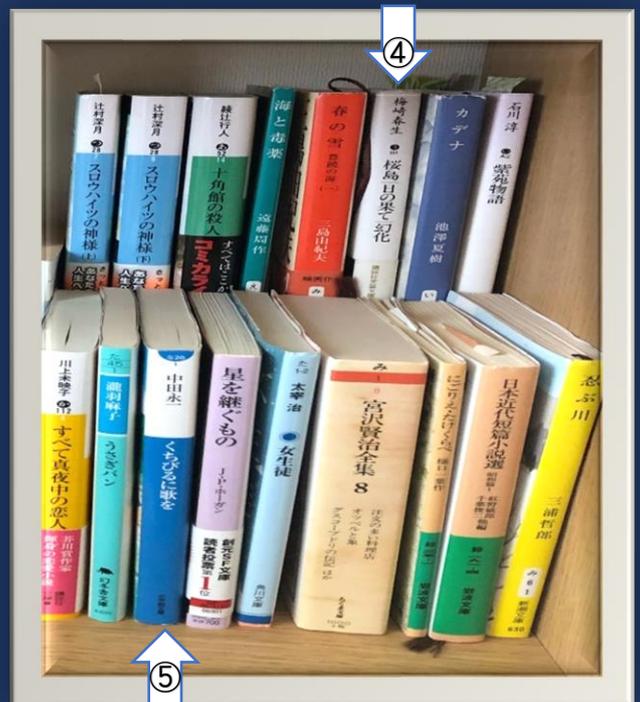
② ヨシタケシンスケ、2017、『あるかしら書店』、ポプラ社…お客様の「こんな本、あるかしら」に「ありますよ」と答えて実際にその本を出してくれる「あるかしら書店」。現実にも本当にあったらいいなと思う本がたくさん出てくる絵本。夢が詰まっている。

③ Eric Swenson, 1947, 『FAMOUS FRENCH SHORT STORIES』, POCKETBOOKS…高校の時にカナダに留学し、そのリサイクルショップで買った洋書。表紙がかっこよかったから購入したが、タイトルをよく見ないで買ったので、まさかフランスのホラーな短編物語をまとめた本だとは知らず、この本棚の持ち主は一話読んでから知って驚いた。ホラーは私の中でも苦手なジャンルだったため気軽には読めず、読みさしになっているが、時間がある時に読破目指して辞書片手に読み進めている。



④ 梅崎春生、2018、『桜島 | 日の果て | 幻化』、講談社文芸文庫…この中の『桜島』はこの本棚の持ち主がゼミに入って初めて発表を担当した本。作者の戦争体験を元にした作品。調べものから解釈、レジュメの作成まで慣れない中で行っていたので、私にとって初心を思い出させる一冊となっている。

⑤ 中田永一、2017、『くちびるに歌を』、小学館文庫…長崎県五島列島にある中学校の合唱部の物語。新垣結衣さん主演で映画化もした。私は中学校から現在まで合唱を続けている身だったので、この本を読むと改めて合唱っていいな、好きだなあと思える一冊。(ライサポ3年)





こんにちは！！！！ライサポの4年です。私の読書遍歴をお話していきたいと思います。皆さんは好きだった絵本はありますか？私は幼少期に「おひさま」という小学館から発行されていた幼児雑誌が好きでした。一番のお気に入り「へんてこライオン」というお話を読み終わった後、続きを考えることです。父と母が本気で読み聞かせをしてくれたおかげ？今でも朗読を嗜んでいます。

小学生時代。一度は絶対通る道、講談社の「青い鳥文庫」の登場です。「パセリ伝説」「妖怪ナビルナ」「黒魔女さんが通る！！」…好きなシリーズは挙げていくとキリがありません。ファンタジー以外にも「名探偵夢水清志郎事件ノート」「パソコン通信探偵団事件ノート」などの推理ものが好きでした。そして…四年生の頃には図書室の本をほぼ全部読んでしまいました。残っているのはあの世界的児童文学「ハリー・ポッター」のみ。しかし数十ページ読んで断念しました。同じファンタジー児童文学であるドイツのホルネーリア・フンケ作品は好きなのになぜ…？ホルネーリア・フンケは今でも好きです。

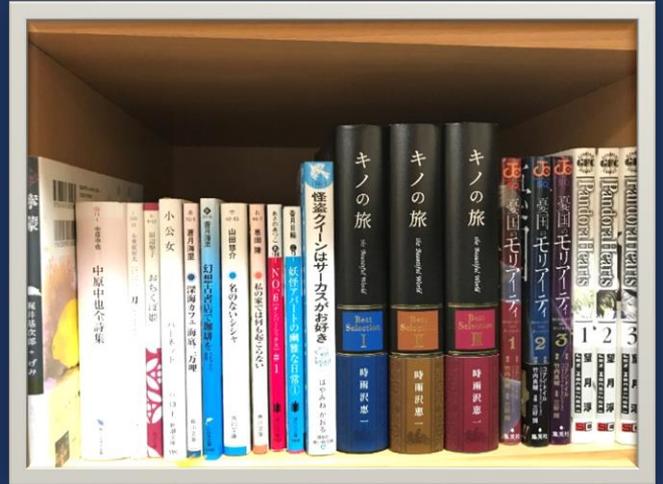
中学生時代には、ドラッカーの「マネジメント」に大ハマリ、何十回も読みました。(今となっては内容が全く思い出せない)他には「NHK 日本語アクセント辞典」を読んでいました。全ページ読んだのでこれはもう読書です。日本語の綺麗さに釘付けの日々。今では音声学系のレポートは書くのが物凄く早いです。

高校生になりました。愛読書は参考書です、かなしい…。部活を沢山掛け持ちしていた為、読書から離れてしまいました。友人から「ハリー・ポッター」を布教されていたけれど、私はやっぱり肌が合わない。唯一読んだ本は、大好きな羽田圭介先生の作品でした。前半は淡々としていて、後半で一気に様々な伏線が回収されていきます。「誰？」と思ったその貴方、又吉直樹の「火花」で有名な芥川賞を取った作家です。そして、大学受験の期間を迎えた私にとんでもないことが起こりました。英語の試験で「ハリー・ポッター」の長文問題が出ました。偏った読書は辞めようと心に誓う…。

大学の図書館には本が多すぎて、やっぱり偏ってしまいます。最近は戯曲と演劇史に凝っています。昨年の本の福袋※ではPOPを見て選び、開封したら女優さんの本3冊とシェイクスピアでした。今年はオンライン福袋から偏った読書を脱したいです！！(ライサポ4年)

※普段読書する機会の少ない方や新しいジャンルの本を読みたい方等により多くの本を手にとってもらおう！という趣旨の法政大学図書館でやっているイベント





シリーズものは写真に全冊入らないため、多くても三冊までとして今回本棚に並べている。本当ならば一つ一つ紹介していきたいところだが、とても長くなってしまったため、この本棚の中から何冊かピックアップして紹介していく。

○梶井基次郎、2017、『檸檬』、立東舎

この本は全ページが書き下ろしのイラストであり、小説としてでも画集としてでも楽しめる作品。光彩や雰囲気が美しく、見ているだけで世界観に取り込まれるような一冊になっている。

○青月海里、2016、『深海カフェ 海底二万哩』、KADOKAWA

主人公来栖倫太郎が水族館の謎の扉の先にあるカフェで出会ったのは深海という不思議な雰囲気の店主。この主人公と店主の二人で来店してくる人々の心の海へもぐり、人々の忘れてしまった思い出を探し出すという物語になっている。深海魚や海の描写が美しく、自分の目の前に海が広がっているような気分になる、そんな美しい作品。

○時雨沢恵一、2020、『キノの旅 the Beautiful World Best Selection I』、KADOKAWA

主人公キノと喋る二輪車（モトラド）のエルメスの旅の物語。この本は『キノの旅』シリーズの中から厳選された作品が収録されているベストセレクションバージョンになっている。彼らの旅は残酷で暖かい人々との出会いに満ちていて、切ないけれどとても美しい。文庫本の方でもいいのでぜひ手に取ってじっくり読んでもらいたい。

○望月淳、2006、『Pandora Hearts 1』、スクエア・エニックス

15歳の成人の儀式に現れた謎の人物によって、不思議な世界に墮とされたオズ＝ベザリウスが出会ったのはアリスと名乗る少女だった。『不思議の国のアリス』をモチーフにした世界観でありながらダークファンタジーである故に不気味で残酷な要素も多く含む物語。この残酷な世界の中で、成長するオズや仲間たちとの関係性がとても暖かく引き込まれる作品である。

(ライサポ3年)

電子ブックを読もう

図書館で利用できる本は、紙の本だけではない。VPN(AnyConnect)接続をすると、電子ブックも利用できるようになる。この記事では、電子ブックの使い方やサイトの種類、どのような本が読めるかについて紹介する。

電子ブックを利用するには

- ①VPN(AnyConnect)接続をして図書館のホームページにアクセスする
- ②図書館OPACにログインする
- ③「データベース」から「電子ブックを読む」を選択する
- ④使いたいデータベースにアクセスする



VPN(AnyConnect)接続とは

学外にいながら学内専用のコンテンツにアクセスできる接続方法のこと。「法政大学 全学ネットワークシステム ユーザ支援ウェブサイト」と検索し、ヒットしたサイトに手順が書いてある。「AnyConnect」というソフトをインストールするとデータベースにアクセスできるようになる。

図書館が作成した詳しい手順はこちら↓↓↓

<https://www.hosei.ac.jp/application/files/5115/8614/4721/2020AnyConnectVPN.pdf>

どんなサイトがある？

☆「KinoDen：キノデン」

紀伊国屋書店が運営する学術電子図書館。SPI対策や面接対策といった就活本から、簿記やTOEICの勉強ができる本など、学術書や研究所が中心である。また、アプリをダウンロードすることで付箋やマーカーという便利な機能が使えるようになる。

【Pick Up!】

地球の歩き方編集室、『地球の歩き方』シリーズ、ダイヤモンド・ビッグ社

→言わずと知れたガイドブックの定番。現実で旅行に行けないこのご時世で、空想上の旅行を楽しめる。レストランやホテルだけでなく、土地文化や通信事情まで網羅されている。

☆「Maruzen eBook Library」

丸善雄松堂が運営する電子書籍サイト。トップページに「人文科学」や「理工学」といったジャンル分けがされており、読める本を分野から絞り込むことができる。もちろん補名を入れての検索も可能。

【Pick Up!】

中山繁信、2013年、『美しい風景の中の住まい学』オーム社

→人間の生活には欠かせない「住まい」がもつ美しさについて、建築家である著者が語ったもの。世界中にある様々な特徴を持つ住宅について、スケッチも交えながらどのような美しさがあるのか解説する。

三題噺「窓辺のキッチン」

三題噺とは、元来落語の大喜利の一種で適当に言葉（題目）を出させ、その題目3つを織り込んだストーリーを紡ぎ出す即興芸です。そこで担当者に3つのワードを提示し、短編小説の執筆に挑戦していただきました。

今回は「チョコレート」「待つ」「ビル」の3つのワードがお題です。

チョコレートの香りが漂ってきてキッチンへ行くと、彼がガトーショコラを焼いていた。ひじから指先くらいまである長さの、大きなガトーショコラである。彼はそれを木製のまな板の上に乗せていて、今まさに包丁で切り分けようとしていた。

夫人はふわ、とあくびをして、夫である彼の様子を見ていた。シンクが取り付けられた壁には、白木で囲われた小さな窓がある。そこから朝の白い光が差し込んで、彼の黒髪に隠れた短い白髪と、薄いステンレス包丁を照らしていた。

「少し、ガトーショコラを焼いてみたくなくて」

彼は夫人がキッチンへ来たのに気づいて、ふと振り返って言った。彼は頭をかこうとして料理中であることを思い出し、パッと止めた。頭をかくのは、照れ臭いときにやる彼の癖である。

「いつもの発作ね」

「うん。でも思いのほか、作りすぎちゃったみたいだ」

困ったように笑った彼の目元に、しわが寄っていた。夫人はそういうところに、私も彼ももう若くないのだから、と妙な実感を覚える。

彼は時折、衝動的に料理をする癖があった。それは決まって食事ではなくデザートで、夫婦の間ではそれを「発作」と呼んでいた。「発作」は若い頃からのもので、夫人と彼がまだただの同僚であったころから続いている。そもそも、夫人が彼のことをハッキリ認識したのは、「作りすぎてしまって。お一つどうですか」と不器用にラッピングされたクッキーを差し出されたのがきっかけだった。

料理が好きなのかしら。ふと夫人は、疑問に思う。そういえば彼の「発作」について、何となく聞く機会を逃し続けていた。料理が好きなら、私が作る三度の食事も、時々は自分で作ってみたいと思っていたりしたのかしら。あの頃より器用になった彼の手つきを見ながら、夫人は思った。

「こんなに大きいのは、食べきれないわね」

「大家さんに持っていこう。明日娘さんが遊びに来ると言っていたし、きっと喜んでくれるよ」

トン、トン、と包丁を滑らせながら、彼はガトーショコラを切り分けた。粉糖の振られていない素朴なガトーショコラは、つやめきながらも少しだけひび割れている。夫人はそれが、どこかで見たことのあるもののような気がしてならなかった。じっとガトーショコラの表面を見ていると、だんだん既視感の正体を思い出した。

「……何だかこれ、ビルみたい」

「ビル？」

「そう。このガトーショコラ。外壁がひび割れていて、少し年季の入ったビルに見えない？」

彼は一度首をかしげてから、まな板に横たわるガトーショコラをまじまじと見た。それから何かを思い出したように目を瞬かせて、ふっと笑った。

「じゃあ僕は今、ビルを切り分けているんだね」

「ふふ。そうなるわ」

「昔僕も、ビルじゃないけど、レンガを見てチョコレートみたいだなと思ったことがあったよ」

「そうなのね。でもなんだかそれ、ちょっと分かる気がする」

三題噺「窓辺のキッチン」

彼は大家さんへ持っていく分を、3切れずつ透明な袋へ入れてラッピングしていった。夫人は水がはねないようにそっとシンクの蛇口を捻り、ガラスのコップへ水を注ぐ。のどを潤してから、夫人は彼に尋ねてみた。

「料理が好きなのって、昔から回りのものがお菓子に見えていたから？」

「え。急に何だい。うーん、……考えたこともなかったな」

彼は袋の口をラッピングタイで閉じながら、少し困ったような顔になった。

「僕は……、そうだな。例えば、ボウルに入れたチョコレートとバターを混ぜたり、ケーキの生地を切るように混ぜていく時間が好きなんだ」

「それは、どうして？」

「うまく言えないけど。食べるために料理するんじゃなく、料理の過程が好きって言ったらいいのかな」

夫人は分かったような分からないような顔をして、曖昧にうなずいた。夫人はどちらかといえば、食べるために料理をする人であった。何かと混ぜたり、煮たり焼いたり、少しの工夫で食事の美味しさは跳ね上がる。それは素材を料理へと育てていくような感覚で、一つの魔法を使っているような感覚でもあった。

「あとは、オーブンで焼きあがるのを覗いている時とか、けっこう楽しいんだ。こう……育った！ って感じがしてね。ああ、ひょっとして、僕がお菓子を作るのが好きなのは、これが理由かもしれない。膨らんでいくのを見るのが好きなんだ。パイでも、ケーキでも、なんでもね」

「あら、それは私も同じだわ。素材が料理になる瞬間って、ごく一瞬な気がするの。下ごしらえの時間の方が長くて、火にかけたら、あとは料理に成っていくのを待つだけ。もちろん、火にかけてからが長いものもあるけれど——」

二人はお互いに顔を見合わせて、同時に破顔した。思考の仕方がとてもよく似ている。それは20年も共にいて、同じ料理を食べ続けてきたからだろうか。

「あなたがお菓子を作りすぎちゃうのって、きっとそのせいね」

「そうかもしれない。気づくと、ボウルいっぱい素材を入れてるんだ」

彼は残ったガトーショコラを白い皿に乗せた。それから薬缶に水を汲んで、火にかける。コーヒーを淹れる準備をしているのだった。

「さて。それじゃあ、この小さなピルを食べるとしよう」

彼は悪戯っぽく笑って言った。夫人もつられて、くすりと笑った。



担当：島崎里実

PICK UP ライサポ

01 140文字の本紹介

大学図書館のTwitterを活用し、ライサポによる書評を投稿しました。実施期間は5月下旬から7月上旬。投稿には、大学図書館の電子書籍サービスであるMaruzen eBook LibraryやKinoDenのリンク、青空文庫（著作権が消滅した作品や著者が許諾した作品のテキストを公開しているインターネット上の電子図書館）のリンクを張り付けました。オンラインに蔵書があればすぐに読むことができるように、また詳しい内容を調べられる工夫をしました！



02 「食べる」読書会

10月中旬、ZOOM上にて、「食べ物の出てくる小説」というテーマでオンライン読書会を開催しました。この読書会では、読書会を通じて、法大生の読書への関心を高めるのはもちろん、コロナ禍により難しくなっている、大学生同士の交流の場を提供することも目的としていました。当日は多くの学生に参加していただき、終始和やかなムードで会を進行することができました。参加者の満足度も高く、好評の企画となりました。



オンラインで“食べる”読書会

～お腹が空いたら本を読めばいいじゃない～

03 実践知大賞

法政大学憲章を体現する取り組みを表彰する「自由を生き抜く実践知大賞」。第4回となる今回、ライサポもコロナ禍の活動をまとめ、応募しました。その結果、「自由な校風賞」を大学図書館事務部と共同受賞することができました！

市ヶ谷図書館だより、オンライン選書ツアー、オンラインビブリオバトル、オンライン読書会といった、コロナ禍の取り組みが高く評価されました。田中総長からも「読書を孤独にしない『つながる読書』をよくぞ実施してくれました。これこそが、学生たちに力をつける源泉になるものです」とコメントをいただいています！





NO LIBRARY, NO LIFE.

法政大学市ヶ谷図書館ライブラリーサポーターは図書館と協働する学生ボランティアです。

私たちはより魅力的な図書館・サービスを作るために、出来ることから活動しています。

現在、新たなメンバーを随時募集中。詳しくは下記QRコードから。

(ライサポー同)

募集対象：市ヶ谷キャンパスの学部生、院生、通信教育学部生
お問い合わせ：市ヶ谷図書館1Fレファレンスカウンター TEL03-3264-9515
www.hosei.ac.jp/library/shokai/gaiyo/library_supporter

LIBRARY SUPPORTER

